

コロナ禍の中 熊本県原水協定期総会が開かれる

熊本原水協は6月6日(土)くまもと県民交流会館パレオで2020年度定期総会を開催しました。当初5月23日(土)に世界大会INニューヨーク参加者の壮行会を兼ねて開催が予定されていましたが、NY大会が中止となり、コロナ禍の中で、日程を変更し限られた参加者と短時間での総会となりました。総会には、6地域原水協と5団体、被爆者、個人の21名が参加、熊本民医連から3名が参加しました。畠田理事長の開催挨拶の後、笹原事務局長が2019年度の総括と2020年度活動方針・2019年度決算報告を行いました。討論では、天草原水協の「平和行進」の取り組み、菊池原水協から「平和の波」の計画、二世三世の会から「被爆者証言」の取り組みが報告されました。その後、「ヒバクシャ国際署名」ピースチャレンジャー達成者12名のみなさんに「熊本さをり会」の宮田さんより提供された「Tシャツ」の贈呈式が行われました。県原水協顧問の中島さんは、5,000筆を達成されました。熊本民医連もたくまの里の4名が達成しました。



朝宣伝行動 「新型コロナ対策、自粛と補償は一体で！」

毎週金曜日に、神水交差点(旧タニダ前)にて朝宣伝行動を行っています。憲法9条改悪 No!などのプラスターやのぼり旗にあわせて、県連事務局作成の『新型コロナウイルス対策・「自粛と補償一体で！」「医療現場に財政支援を！」の横断幕が登場。通勤途中の車の中から賛同する合図を出される方、笑顔でうなずく方がおられました。SNS上でも「自粛を求めている補償がないのはおかしい」との声が広がっています。

県連事務局 井上 晋

